平成25年度 第2回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校
校長 谷 輝 久

評価日		平成26年2月27日(木)			
委員	氏名	性別	資格・所属等		委員長
	小川 政宏	男	現鳥取湖陵高等学校PTA会長		○
	小椋 孝昭	男	学校評議員 鳥取大学特任教授(元県立高等学校長)		
	土井 康作	男	学校評議員 鳥取大学地域学部教授		
	星見 清晴	男	学校評議員 湖山西地区公民館長(元中学校長)		
渡部 一恵	女	学校評議員 県職員(元本校PTA会長) …欠席			
評価・提言				学校の所見・改善策等	
1 今年度の自己評価(重点目標の達成状況等について) (1) 学習指導の充実については、全教員が公開授業を実施。授業アンケートも適正に各教科で分析し、改善策を検討するなど意欲的に授業改善に取り組む実践がみられる。 (2) 進路指導の充実については、学習セミナー等の進路実現に向けた支援などが実践されており、生徒の進路意識の醸成が進んでいる。 (3) 生徒指導の充実については、以前と比較し学校全体に落ち着きが見られ概ね良好である。 (4) 開かれた学校づくりについては、ホームページの改訂を行い、積極的な情報発信の姿勢が見受けられる。また、ある中学校の保護者が、学校見学をした際に非常に充実した施設・設備や取組を見聞きする中で学校理解が深まったことがクチコミで委員の方々にも伝わり、学校の前向きな姿勢を感じた。その辺が入試倍率にも反映したのではとの意見在り。 2 今年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況 活力ある学校づくりとして、県教委の学校裁量予算による支援により湖陵ドリカムプロジェクトを計画通り実施。多くの特色ある実践が行われており大いに活力を感じる。特に、先日開催された鳥取県専門高校活動成果発表大会における造園に関する成果発表では、技を身に着ける素晴らしさを存分に表現し発表し非常に感銘を受けたとの意見在り。 3 取組改善のための提言 (1) 前年度の課題を踏まえて次年度の目標設定を作成される際は、数値目標を掲げることで目に見えやすい形での評価ができるようにしたほうが、教職員間での目標の共有も明確となる。 (2) 公開授業が積極的になされているが、ビデオ撮り等もされると、後で検証することで授業者も自己評価出来、より効果的である。また、他の教科の授業を見ることも新たな気づきがあるのもっと積極的に参観を促して欲しい。 (3) 生徒の自宅学習時間が伸び悩んでいるようだが、「世の中のためにこれがやりたい」といった学びの動機づけを大切にして欲しい。またそれに関連した読書なども自宅学習と考えて良いと思う。当然、各教科で課題などを出し、自宅学習を促すことも大切である。 (4) 学校が育てた生徒がこの地域に定住できるよう、行政の支援を積極的に依頼することも必要である。例えば鳥取市は「若者が集う街キャンペーン」などを行っているようである。 (5) 規範意識の確立は、一人一人が他者意識を持つといった倫理観が大切であり人権教育にも通じるものであり力を入れてほしい。 (6) 資格試験へのチャレンジは、生徒に達成感と自信を持たせるのに非常に有効であり引き続きお願いしたい。				(1) 学校の目標設定では評価指標として数値目標を掲げることで、客観的に捉え改善に取り組む。 (2) 「学び合い」を取り入れた授業の実践を拓げ、積極的な参観を推進する中で授業改善の取り組みを充実させる。 (3) 活力ある学校づくりのために、「湖陵ドリカムプロジェクト」を引き続き推進するとともに、鳥取大学や県教育センター、各企業・行政機関など地域の教育力を活用し、より高い専門性に触れる機会を持ち、専門教育の一層の充実を図る。 (4) 規範意識の確立と挨拶・礼儀・マナーの指導充実に取り組む。 (5) ホームページ等を活用した、学校外への積極的な情報発信に取り組む。	